



PRESS RELEASE

報道関係 各位

2020年8月24日

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

日本パラリンピック委員会

**東京 2020 パラリンピック競技大会まで後1年
日本パラリンピック委員会(JPC)会長コメント**

本日 2020年8月24日は、来年2021年に行われる東京2020パラリンピック競技大会の一年前です。開幕日まで後1年となったことについて、日本パラリンピック委員会(JPC)会長のコメントを発表致します。

<本件に関するお問合せ先>

(公財) 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

企画情報部 担当：黒田、赤星

TEL 03-5939-7021 Mail : jpcjpsa-media@jsad.or.jp



世界に甚大な災禍をもたらしている新型コロナウイルス感染拡大により、わが国も未曾有の苦難に直面し、その克服に向けた国を挙げての取り組みが続いています。その中で、献身的に医療活動に従事され、また重要な社会基盤を支えていただいている方々に、改めて心から感謝の意を表します。

去る7月23日、東京2020組織委員会により「一年後へ。一步進む。～+1（プラスワン）メッセージ～ TOKYO2020」が国立競技場から世界に発信され、来年のオリンピック・パラリンピック開催に願いを込めた、競泳の池江璃花子選手のメッセージが、多くの国民の共感を呼びました。

その東京2020パラリンピックの開幕まで今日であと1年です。競技スケジュールは今年の計画を1日前倒しし、全て同じ会場、同じ日程で実施されます。

ご承知の通り、日本パラリンピック委員会は大会延期が決まる前の今年2月に、東京2020パラリンピックに向けたスローガン「超えろ、みんなで」を発表しました。これは、あらゆる違いや昨日までの常識、胸に秘めた目標などを、パラアスリートだけでなく、支える人や応援する人も含めたみんなの力で乗り越えてパラリンピックを大成功させ、共生社会の実現を目指す思いを込めたものです。

この思いは決して変わることはありません。その上で、来年の東京2020が、東日本大震災からの復興とともに世界が新型コロナウイルス禍を乗り越える象徴として、大きな希望をもたらす、より意義のある大会となるよう、気持ちを新たに万全な準備に努めたいと思います。

コロナウイルス禍により日常が変わり、目標に挑戦する日々のトレーニングや全国的な大会機運の盛り上げに多くの困難が予想されますが、様々な逆境にもめげずに道を切り開いてきたパラアスリートをはじめ、支える人や応援する人を含めたみんなの協力でこの難局を乗り越えなければなりません。

そして、禍をプラスに転じる強い意志を持って、日本代表選手団の総合力の向上やパラスポーツ・ファンの広がりなどに努め、1年延期の価値を示せるような素晴らしい大会を目指したいと思います。

何より私たちは、パラアスリートが東京2020で最高のパフォーマンスを発揮できる環境づくりに全力を挙げて取り組みます。

2020年8月24日

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

会長

鳥原光憲